

昭和  
五年 三月の天象

太 陽

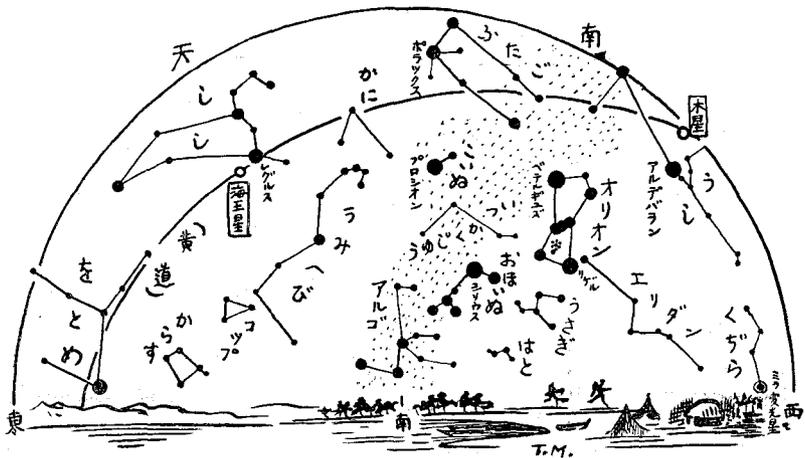
日	赤 經	赤 緯	視 直 徑	星 座
1	22時46分52秒	南 7度45分	32分20秒	みづがめ
11	23時23分50秒	南 3度29分	32分15秒	う を
21	0時 0分33秒	北 0度 4分	32分 9秒	う を
31	0時36分56秒	北 3度59分	32分 4秒	う を

月始め双魚宮に在るが、21日から白羊宮に侵入する、即ち此の日は春分であつて、同日午後6時近くに、太陽は春分点を通過する。即ち此の日は晝夜平分の日である。日出が午前6時4分、日入が午後6時12分と曆に出てゐるので晝間の方が長い様だが、此れは太陽上縁が見え始めてから、見え終るまでの時刻を示してゐるためである。

月

月 の 相	時 刻	視 直 徑	星 座
上 弦	8日午後1時 0分18秒	31分51秒	う し
満 月	15日午前3時58分24秒	32分49秒	し し
下 弦	22日午後0時12分36秒	29分50秒	い て
新 月	30日午後2時46分24秒	30分24秒	う を
近地点通過	13日午前5時24分	33分 0秒	し し
遠地点通過	25日午前2時24分	29分50秒	や ぎ

本月は先づ1日午前8時に金星を追越すのが、月の遊星歴訪の始まりであつて、3日午前9時には天王星に追ついて、南2度の所を通り、7日午後11時には木星と並ぶ。更らに13日午後2時には海王星に出合つて、23日午前8時に土星を追越し、28日午前1時には火星に追ひ付いて、南側を通り、30日の午前8時に水星と出合ひ、同日午後6時には、再び天王星に追いつく、そして31日午後5時に金星に追ひ付いて、蔽掩を起すが、残念な事には月齡が僅かに1日であるから、月の位置を探し出す丈でも大變である。



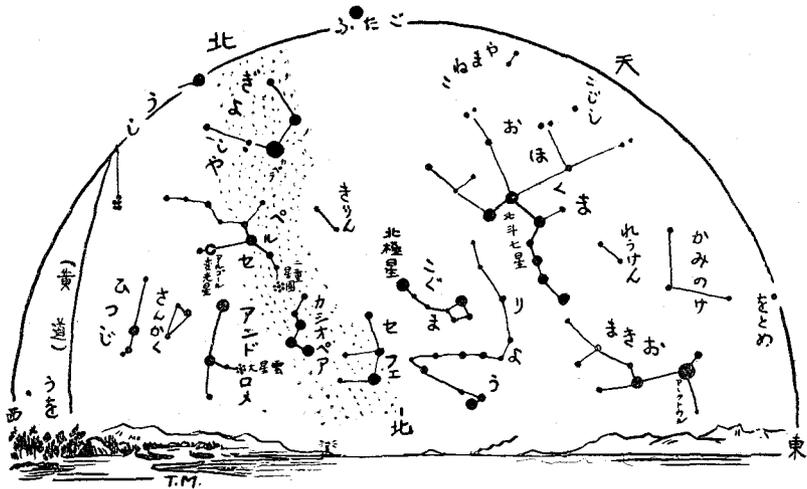
### 恒星界

桃の節句も過ぎると、椽に落ちる日ざしも日毎に長く、よみがへつた青葉は、のどかな堤を線に包む——

地上の世界が春を迎える頃、天上の世界も亦、冬の星座に別れを告げてゐる。彼の「オリオン」——大星雲で親しみのある、冬の星座の代表者の「オリオン」も既に西に傾き、全天にて最大光度に輝やく恒星シリウスや、5 糎望遠鏡で見頃の二重星 $\times$ 星等を含む大犬座も亦、此れに續き、冬の間、吾人の眼を楽しませた此等の星々は、只だ、宵の西空に黄道光が輝やく頃暫らく姿を現はしてゐるのみ。冬の星座が西に没すると、可成り寂寞を感じる。併し「しし」「をどめ」の柔かい光に充ちた星座が登つて來ると如何にも春だと言ふ氣持になれる。

天頂の「ふたご」は望遠鏡の持ち主にも、肉眼での観察者にも盡きない興味の源泉である。——其の二重星を見よ、其の變光星を見よ、更らに又た、其の美しい星團を見よ。

二重星には、「しし」座 $\beta$ 星、「かに」座 $\iota$ 星、「うみへび」座 $\epsilon$ 星等がある。青赤黄と、色取りごりに美しく並んだ二重星を見得るのは、吾人の誇りであり楽しみである。



### 遊星界

**水星** 曉の星であり、月始めは「やぎ」座にあるが順行して、月末には「うを」座に至る、2日午前6時に火星に追いついて僅か半度の近距離を通過する。詳細前月號を参照され度い。視直径は月始めに5秒半(角)月末に5秒、光度は零等、月末には太陽に近く觀望不能。

**金星** 宵の星ではあるが、太陽に近く觀望困難。

**火星** 曉の星であるけれど太陽に近く、月末程觀望し易い。視直径は4秒。光度は正2等。月末の位置は、「みづがめ」の東部に到る。

**木星** 宵の南天に負2等の光度で、「うし」座の中央を順行してゐる。視直径35秒。徐々に太陽に近くなるので見難くなつて来る。

**土星** 曉に東天に登る。まだ太陽に近いので觀望は餘りよくないが、視直径14秒半。光度正 $\frac{1}{2}$ 等級。「いて」座の中央を順行中。土星の輪が、視線となす角度は25度であり、今後一二ヶ月は此の角度が次第に減少する。

**天王星** 宵の星であるが太陽に近く觀望不能。

**海王星** 宵に東天にあり。「しし」座主星レグルスの東方を逆行中。光度8等、視直径は2秒半。